

東北 乳頭山スキー

—木下・斎藤

【日時】 2007年12月27日(土)～30日(火)

【メンバー】L木下、手嶋、佐藤、中村、斎藤

長期休暇の年末年始、珍しく早くから日程を確保していたのだが前日まで田沢湖スキー場はオープンできず、雪がない！やきもきしていると今度は冬の嵐というべき強い冬型。結構な降雪となり、かろうじて山スキーが出来るコンディションとなった。（この嵐で多くの遭難事故がおきたのは大変悲しい出来事であった）今回は乳頭温泉郷の一角にBCを設けて、乳頭山、秋田駒ヶ岳、小白森山、笹森山をそれぞれワンデイで狙う計画であった。天候厳しくピークスキーが出来たのは乳頭山だけ残念でしたが、楽しいメンバーとパウダーと温泉、シーズン始めの4日間を過ごしました。



12/27【秋田駒ヶ岳/旧田沢湖高原スキー場～1050m 付近まで】 風雪

高速道路が吹雪で閉鎖される前に盛岡ICを抜け未明の国道を田沢湖に向かう、仮眠無で運転を交代しつつここまでやってきた。乳頭温泉郷の一角にBCに絶好の場所を見つけて、設営。正午になってしまったので本日は秋田駒の偵察方々、閉鎖された旧田沢湖高原スキー場を行ってみる。膝下のラッセルでスキー場を登り、八合目にいたる林道に出る。樹林に入ると風も収まり一息つく。ルートの確認も出来、睡眠不足でもあるので、今日はここまで。さて、パウダーのスキー場跡を楽しめるかと思いきや、傾斜がないので直滑降の一本！となってしまった、初日の足慣らしを終了する。



12/28【乳頭山/孫六温泉～田代平まで】 風雪
昨日と同じ強い冬型気圧配置が続いているが、午後からの天候の回復を期待しつつ今日は乳頭山へ向かう。蟹場温泉に車をデポし、大釜温泉から孫六温泉に向かう林道をシールで進む。風雪の中の孫六温泉はまさに秘湯の風情である。尾根への取り付きは急斜面でブッシュも濃いので一苦労。息を切らして登りきると穏やかなブナ林。雪化粧したブナの木々

が舞い散る雪の中に佇んでいる、そして風の音、黙々とスキークのトレースをつけていく「山は良い」

針葉樹が点在するようになると田代平は近い、連れて風が強くなる。田代平は広くルートファインディングは難しい、視界は20m以下と思われる。しばし進むが天候の回復もなく、上部が望めそうにないのでここまでとする。田代平の入口に戻ってシールを外す。ブナ林の中のパウダークルージングが楽しかったことは言うまでもない。



12/29【乳頭山/孫六温泉～乳頭山】 曇り時々晴れ/山頂付近は雪

前々日の秋田駒ヶ岳方面の偵察、前日の乳頭山方面の偵察を経て、この日は、滑りが期待でき、頂上アタックの可能性も高い乳頭山に行くことになった。滑りとピークの両方を求める姿、このメンバーらしい嗜好だ。

蟹場温泉の駐車場で、記録係を言い渡され、出発時間をメモしている間に、皆は、サーと滑って行ってしまい、一人出遅れる。「あ～、街中ではぐれた。」と思って、慌てて追いかけるも、皆の姿は既に見えず。ちょっと行きすぎに気づいて戻ると、手嶋さんの顔が見え、なんとか合流することができた。

孫六温泉から田代平までは、昨日も往復した気楽な道。ブナの森に守られ風もない。葉を落としたブナの木は、雪の衣をまとい、今日も綺麗な姿で僕たちを迎えてくれている。昨日も、今日も、ここを通るのは、僕たちだけのようで、森は静寂に包まれている。時間が遅くなればなるほど、天候が回復するとの読みから、「ゆっくり、

ゆっくり」の掛け声。所々で、休憩を長めに挟みながらも順調に進んでいく。

間もなく、傾斜が無くなり、田代平の雪原に到着。視界は、自分の目で100mほど。良くもないが、それほど悪くもない。風は、昨日よりも弱い。ここからは、赤布を30m間隔ぐらいで木に結んだり、雪原に刺していきながら進む。さらに、中村さんのGPSで方向をナビゲート。「70度方向です。」「90度方



向です。」の指示通りに進むと、ドンピシャリと田代平小屋に行き着くことができ

た。

小屋は立派な二階建て。この時期は、まだ雪が少なく一階から苦も無く入ることができる。ここで、大休止。

頃合を見計らって、頂上に向けて出発。途中、雲が切れ、向こう側の山が見えたりすることもあったが、頂上に近づいていくに従い、風が強くなってきて、斜面もクラストしてくる。ここからは、特に慎重に赤布をつけながら進む。歩みは遅いが、中村さんがGPSを見て、「あと少しで頂上」と教えてくれていたので、風と氷と雪の冬山を楽しみながら進んでいくことができた。

岩が出てくると風はさらに強まり体を少し屈めながら耐風姿勢で進んでいくと山頂の標識。さっと記念撮影をして、早々に下山を開始。

スキーは、あっという間に滑り降りてしまうので、登りよりも下山のほうが注意が必要と言われながら、赤布を一個づつ見つけて進んでいく。赤布と思って近づいてみたら違った場合の方が一に備えて、何人かが一つ前の赤布に残って次の赤布に近づいていくシステムなど、初めての経験であったが、やり方が分かりた

めになった。

田代平小屋に戻り、少しだけ休憩していると、地元、秋田の二人組みが入ってきた。こちらの二人は、蟹場温泉のほうから登ってきて、山頂へは行かず、また、蟹場温泉のほうへ滑り降りるといふ。地図で見ると、確かに、そんなコースもとれそうだし、面白そう。小屋を出るとき、



簡単に雪を掃除し、いよいよ、メンバー待望の滑りへ。ブナの間隔が広く、藪も出ていなく、新雪がたっぷりあるこの斜面、初心者でも滑りやすい。例のごとく、皆でホウホウと言いながら、あっという間に孫六温泉まで滑り降りてきてしまった。

【コースタイム】

蟹場温泉P(7:40)－孫六温泉(8:10)－田代平小屋(10:45/11:15)－乳頭山(12:15)－田代平小屋(13:00/13:20)－蟹場温泉P(14:40) <斎藤 記>

12/30【田沢湖スキー場ゲレンデスキー～帰京】 雪のち晴れのち曇り

小白森または笹森山を予定したのだが、再び冬型の予報。ピークスキーは望むべきもないのでゆっくりと起床、ゲレンデスキーに切り替えた。すると今日は青空を望む4日間が一番穏やかな天気、残念！と思いつつゲレンデ内のパウダーを楽しんだ。午後からは黒い雲が・・・遠い家路に付いた。

東北の山スキーは温泉との組み合わせは切っても切れないところ、今回も毎日（4



つの違う) 温泉に入りました。こんなのんびりした山もトマで市民権を得れるのかなあ、と思いつつ記録にいたしました。(有望な新人の斎藤君にこんな自堕落を教えてはいけない、との声が飛んできそうですが・・・)

【地形図】 秋田駒ヶ岳

<Photo by Nakamura>